

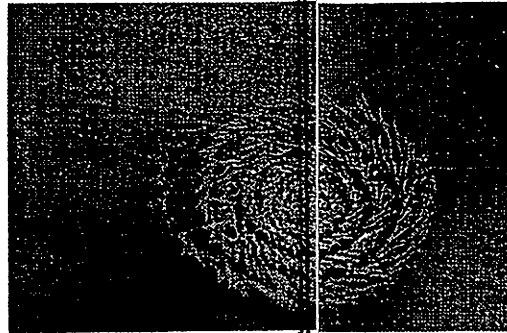
2003.02.07
写真展から

イベントガイド 多摩

な現代版画など。月曜休み。会042・726・2771。

●秋川フォトクラブ写真展
12-16日、あきる野市・あきる野ルピア。同クラブの会員15人が、八王子市の滝山城跡や多摩川などを撮影した作品約60点を発表。会080・5029・5721、藤井さん。

●キタガキヨシヒサ展 25日まで、国立市・ギャラリーアセン。水彩、油彩による平面作品を約15点展示。水曜休み。会042・571・2558。



「秋川フォトクラブ写真展」から

去年の秋、赤トンボの墓場を新潟で見たと友人の話を知り、トンボ狂いになってしまった。
数え切れないほどのトンボが身体を寄せ合って死んでいるという。トンボ好きのぼくは、すぐ新潟にこんでいった。いる。いる。いろんなトンボがいる。すべ一カ月間部屋を借りて、毎朝、肩、夕暮れ時と小川の畔のトンボの住み家を訪ねて歩く毎日になっ

時のかたち

石亀 泰郎

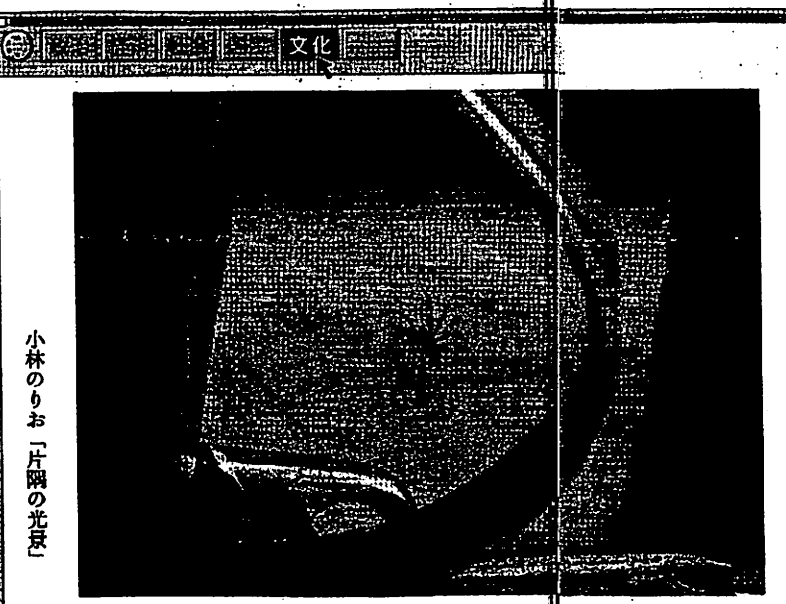
トンボは子どものように明るく、心を持っていて、寂しがり屋だった。
日中は、あんなに高い木の

トンボの墓場

てっぺんで辺りをみまわし孤独を愛しているのに、夕方になると、みんなとなく集まり始める。そして手と手を、いや、羽根と羽根を重ねたり、向かい合って顔と顔をくっつけて話をしたりしてとても楽しそうだった。
しかし、秋が深まっていくと、棘のついた草木に抱きついてしまふことも多くなる。必ず仲間がやってくる。助けを求め、一匹でだめだと三匹、三匹とやってくる。でも助けようもない。網をはって待ちかまえた蜘蛛に捕まってしまう。朝になると、寒さに耐えられなかったトンボが肩を寄せ合ったままの姿で死んでいる。小川の畔は、まるで生きているような姿のトンボの死骸が増えてくるのだ。ほくほく、引き伸ばした写真を机に並べて、トンボの春の日の姿を、その美しい仲間がいなくなった時の寂しさを手と手、また手と手、相談をしながら、編纂者と相談をしながら、この本の

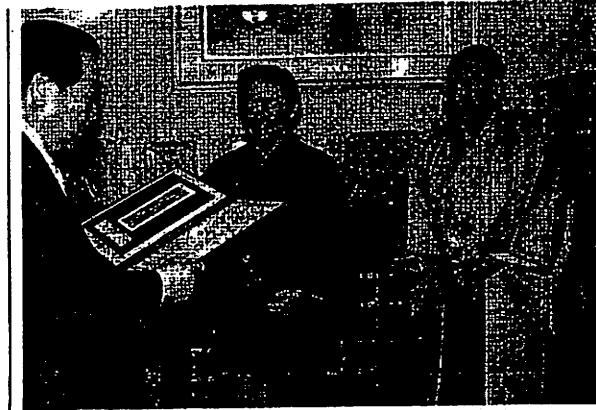
(写真家)

2002 11.29 小川早良子文は関係ない



小林のりお「片隅の光景」

明治の名優切手に



●記念切手を発取
る尾上菊五郎さん
(中央)と市川團十郎さん●発行された
記念切手

九代目團十郎「権五郎」
五代目菊五郎「土蜘蛛の精」



当代両氏に初刷り贈呈

尾上菊五郎さん(中央)と市川團十郎さん(右)に贈られた明治の名優切手。尾上菊五郎さんの「権五郎」の切手と市川團十郎さんの「土蜘蛛の精」の切手が、それぞれ1枚ずつ、2枚の切手として発行された。切手には、両氏の姿が描かれており、切手のデザインは、明治の名優切手の伝統を継いでいる。切手の発行は、両氏の没後、それぞれ100年を記念して行われた。切手の発行は、両氏の没後、それぞれ100年を記念して行われた。切手の発行は、両氏の没後、それぞれ100年を記念して行われた。

◆人形劇「とってもエリック・カー」
(写真)
2月7日(土)5時、渋谷区渋谷1丁目の都児童会館ホール(渋谷駅東口)、8

2003.01.25
朝日新聞



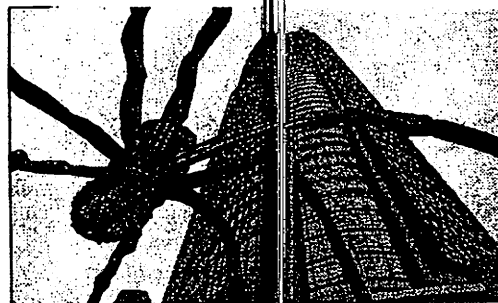


クモが見下ろす新名所 六本木ビルズ

25日にオープンした東京都港区の「六本木ビルズ」。開発を進めた森ビルによろ、同日午後8時までに約32万人が訪れた。JR東京駅前の丸ビル、港区の「汐留シオサイト」に続く「都心の新名所」。仕事を休んでくる人もいた。

「広々して都会的。おじやれな店がそろっていて楽しい」。港区元麻布の銀行員岡田史緒さん(33)はクモのオブジェもライトアップされた25日午後9時すぎ、東京都港区で一つの街だ。

↑ 梅林力さんより



地上五十四階の森タワーなどのビル群からなる「六本木ビルズ」(東京都港区六本木)が二十五日にオープンする。それに先立って二十一日、記者会見と内覧会が行われた。六本木ビルズは、森ビルが手がける「六本木ヒルズ」の一角をなす。年をかけて進めてきた国内最大級の市街地再開発プロジェクト。東京の約八倍にあたる十一・六の区域に、オフィスや店舗、映画館、ホテル、住宅などの棟が建つ。目玉は、森タワーの最上階

「職・住・遊」接近の街

六本木ビルズ 25日オープン

にある「森アートセンター」。海抜一百五十メートルから東京を一望できる東京シティビューや、深夜まで(日)木曜日が午後十時、金・土・休前日は午前零時まで)開館する森美術館(十階)などがある。

「都市再生の方向性は、超高層化と職住などが接近する構造。新しい都市づくりにつなげたい」と話している。

↑ 梅林力さんより



自慢のクモ 棒上で熱戦

加治木町の「くも合戦」

始良郡加治木町の伝統行事「くも合戦」(町くも合戦保存会主催)が15日、町福祉センターであり、小学生から大人まで約140人が持ち寄った自慢のクモが棒上で熱い戦いを繰り広げた。

(3面に関連記事)

同町のくも合戦は、白熱した好勝負が続いた「くも合戦」。

加治木町福祉センターで

約400年前に島津義弘公が陣中で兵士を元気づけるために「コガネクモ」を集めて戦わせ、棒の上で2匹の「コガネクモ」を「かまへ」と「しかけ」に分けて戦わせるもので、相手を振り落としたり、糸を掛けたりすると勝負が決まる。

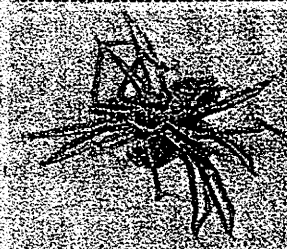
5月に開かれた同保存会の総会で会長に就任した吉村正和さん(68)は、「くも合戦の行司は16年目だが、子供たちが真剣な目で見つめているのを肌で感じる。くも合戦の伝統を大事に育てていきたい」と話した。

(栄光生)

↑ 八幡明彦さんより

↑梅林力さんより

愛と自然



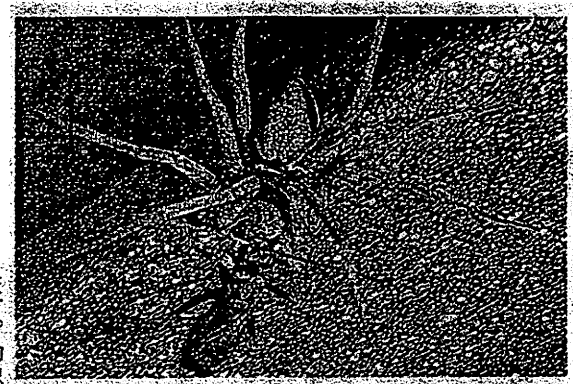
クモのフリンク

「深夜、台所に行く際、瞬間湯沸かし器の側面、何やら黒っぽいものが絡み合っていました。写真。」

クモだぞとばかり、一匹が争っているように思えたが、どうやらそう

ではなく、仲良しでいるように見えた。蜘蛛のフリンクは、瞬間湯沸かし器の側面、何やら黒っぽいものが絡み合っていました。写真。」

由業 文雄(52歳・自由業 半田市板山町)



「ベッコウバチの狩りに出合いました。大型のクモを捕らえる姿に、自然の気迫を感じました。ベッコウバチのメスはクモを地面に掘った巣穴に運んで卵を産みつけます。幼虫はそのクモを食へて育ちます。」

安井 伸太郎(14歳・中学3年 名古屋市巾着川)

ハチの狩り気迫

♡夏休みの初めの真昼時、自転車で近所を走



昭和初期のにぎわい今は昔

設置田口にある鉄道田口線の田口駅は、かつては山から切り出された木材を運び、多くの乗降客でにぎわった。しかし昭和後三十数年たった今、こけむした屋根や壁は、夏の日光を浴びた雑木に覆われ、人の記憶からも消えようとしている。

栄枯盛衰

R飯田線の本長篠駅を築き、田口線の終着駅。住民は、昭和初期には、一日平均百人ほどが乗り降りした。しかし、昭和後半、乗客は激減。一九六〇年代後半、廃線になり、線路の駅舎は取り壊され、線路



田口の昔。かつては多くの乗降客でにぎわった田口駅。今は、静かな田口。田口の昔。かつては多くの乗降客でにぎわった田口駅。今は、静かな田口。

J-COM TVなら毎日24時間、充実のコンテンツが勢ぞろい。



スパイダーマン

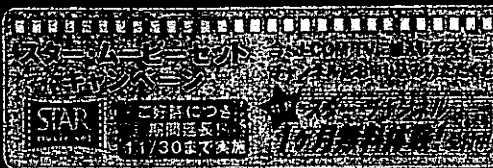
11/1(土)ほか放送

伝説生でシャイな学生、ピーター・パーカー(トビー・マグワイア)は、日通伝子操作されたクモに刺されたことで、超人的な能力を持つスパイダーマンになる。そんな時、彼の友人ハリーの父ノーマン(ウィレム・デフォー)が化学実験の副作用で二重人格となり、邪悪な「グリーン・ゴブリン」と化してしまう。スーパーマン、バットマンと並ぶアメコミ・ヒーローを「死霊のはらわり」などで知られるサム・ライミ監督が完全映画化、それに加え、「インビジブル」「ハリー・ポッター」で世界を驚かせたVFX集団「ソニー・ピクチャーズ イメージワークス」の最先端技術が美しいまでに融合した、現代のCG技術だからこけ上げたスピーディなアクション巨編で、どこかキュートで切ないシーンもある。本作は、娯楽映画の要素を過分なく詰め込んだ傑作、蜘蛛の糸を使う「ワイルド」に摩天楼を飛び交う、スパイダーマンの美しさは必見!さらに、スパイダーマンの続編も制作が決定している、まずは本作のコンプリートをお楽しみする。

© 2002 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC.
© 2002 MARVEL CHARACTER FANTASY, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

クモの巣の中の蜘蛛

- ① スパイダーマンが最初に挑んだのは?
1962年、マーベル・コミックが発表した「蜘蛛の糸」は、超人ヒーローのイメージを一新させた。クモの糸を操る「スパイダーマン」、これが後の人気を博した。1963年、マーベル・コミックは「スパイダーマン」をテレビ番組として制作し、1965年には映画化された。
- ② スパイダーマンは意外と青春映画である。
幼少期の「スパイダーマン」は、青春映画の要素を多く含んでいる。マーベル・コミックの「スパイダーマン」は、青春映画の要素を多く含んでいる。マーベル・コミックの「スパイダーマン」は、青春映画の要素を多く含んでいる。



怪 秘蔵写真

冒険 舌

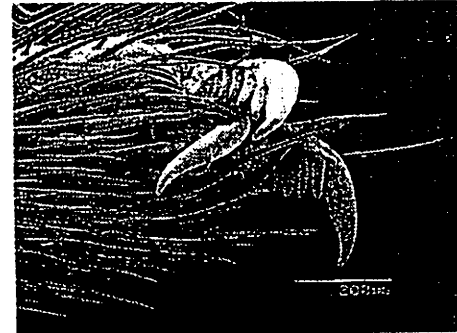
小泉 武夫

蜘蛛の糸
朝霧に光る
青空を
編み込んで
(著者 新川和江)

蜘蛛の糸
朝霧に光る
青空を
編み込んで
(著者 新川和江)

7 2版 2003

◎見る / 観る◎



クモの巣と網の不思議 (池田博明ら著、文芸社・2400円) 大掃除では徹底排除される「幾何学模様」のなどを解説。上の電子顕微鏡写真(撮影・梅林力)はナガコガネグモの脚先。

2003.12.06 朝日新聞

第56回日本推理作家協会賞(長編及び連作短編集部門)

石の中の蜘蛛

浅暮三文 1,700円
当て逃げに追い、蜘蛛が極端に鋭敏になった男。事件の鍵を握る女性の残した音、手がかりに...

「おもしろい、受けて立つわよ」——問答無用の大規模製作!
黒蜘蛛島 怪奇事件簿
田中芳樹「カッパ・ペルズ」シリーズ「アークシオン」700円

●朝起きると、目やにで片目が開かない。「クモの巣がやつたかなあ?」
(大阪府東大阪市 加藤 康太・4歳)
●耳掃除が大好きで毎日「やっ」とせがむ。母「昨日したやん」。「耳かきしない」と、クモの巣は「ちゅちゅ」
(大阪市 光山 遥香・7歳)